

さようなら長嶋茂雄

校 長 武井 正明

長嶋茂雄は太陽だった。

私は堀内恒夫の大ファンだったが、長嶋茂雄だけは別格、長嶋は神様だった。

長嶋の太陽のような笑顔は、日本を元気にした。家の壁には、長嶋のポスターが張られてあった。1974年10月14日長嶋茂雄は「我が巨人軍は、永久に不滅です」という名言を遺して惜しまれながら引退した。

初めてプロ野球を観に行ったのが翌1975年3月23日後樂園球場。

監督は川上哲治から長嶋になった。その川上監督の引退試合。私は堀内のサインボールを手にレフトスタンドにいた。一球一球投手が投げるたびに踵を浮かせて備える高田繁の守備に驚いた。堀内と江夏豊が投げ合い、田淵幸一がいた。王貞治はその試合で肉離れをして大事な開幕スタートに躓き、これが球団史上初の最下位になる伏線となった。

まだ小学校2年なのに、親父は野球のユニホームを買ってくれた。それが羨ましくて「俺も」とねだった弟もユニホームを買ってもらった。そして弟は背番号3をつけてもらった。当時の子どもはみんな背番号3をつけたがったものである。

1976年6月8日後樂園の対阪神戦で、末次利光が逆転サヨナラ満塁ホームランを打った時、私たちはテレビが終わった後のラジオに囁きついていて、勝った瞬間、親父と驚いて目を合わせた。ラジオの向こうに、両手を広げて末次を迎える長嶋監督がいた。

2000年王ダイエーとの世紀の日本シリーズは、前売り予約のために学校を休んで半日電話を掛けまくった。あっという間に予約は埋まり、結局チケットは取れなかった。

アテネ五輪日本代表監督の重圧か、2004年3月4日に長嶋は脳梗塞で倒れた。私はショックで一日仕事にならなかった。その後、不屈の闘志でリハビリに取り組む姿に、みんなの太陽であり続けようとする、この人の本当の姿を見た気がする。

小学校2年最後のお楽しみ会。私の出し物は「長嶋茂雄の引退スピーチ」だった。報知新聞の原稿を丸暗記して、おもちゃのマイクをもち、ユニホームを着て、両親の前で得々と披露した。両親は拍手喝采。「昭和33年、栄光の巨人軍に入団して以来、今日まで17年間、巨人並びに、この長嶋茂雄のために、絶大なるご支援をいただきまして、誠にありがとうございました」から始まるこの出だしは、今もすぐ言える。そしてお楽しみ会前日、最後の給食でナポリタンを食べ過ぎて学校で吐く。結果、翌日無念の欠場（プレッシャーに負けたとの説あり）となった。

親父が亡くなって長嶋茂雄もいなくなった。

きっと「長嶋が亡くなった!？」と、親父も今頃上でびっくりしていることだろう。